

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第13期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 ギークス株式会社

【英訳名】 geechs inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 曾根原 稔人

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区道玄坂二丁目11番1号

【電話番号】 03-6690-6928

【事務連絡者氏名】 取締役 経営管理本部長 佐久間 大輔

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区道玄坂二丁目11番1号

【電話番号】 03-6690-6928

【事務連絡者氏名】 取締役 経営管理本部長 佐久間 大輔

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期 第2四半期 連結累計期間	第12期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(千円)	1,978,263	3,050,413
経常利益	(千円)	415,292	532,117
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	267,271	411,610
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	279,944	410,322
純資産額	(千円)	3,238,950	2,737,377
総資産額	(千円)	4,243,815	4,515,127
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	26.01	47.96
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	25.15	44.66
自己資本比率	(%)	76.3	60.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	96,156	191,429
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,424	124,085
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	14,379	1,058,611
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,502,432	2,615,535

回次		第13期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	8.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第12期第2四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表を作成していないため、第12期第2四半期連結累計期間にかかる主要な経営指標の推移については記載しておりません。
4. 2018年11月14日付で普通株式1株につき20株の割合で、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第12期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、当社は、前第2四半期連結累計期間については、四半期報告書を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っていません。

#### (1) 経営成績の状況

当社グループはグランドビジョンに「21世紀で最も感動を与えた会社になる」を掲げ、ITフリーランスのデータベース、グローバルで活躍するITエンジニア育成など人材インフラを活かし、インターネットの普及によりめまぐるしく変化する人々の生活や企業の行動を積極的に捉え、変化対応力を強みに、提供サービスの創造・進化を通じて常に成長し続けることで、永続的な企業価値向上を目指しております。当社グループは子会社2社を含む全5事業で構成されており、各事業セグメントは「IT人材事業」、「IT人材育成事業」、「ゲーム事業」、「動画事業」、「インターネット事業」の5つに分類されております。

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年9月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調がみられました。一方で、人手不足感の高まりや消費税増税の影響、世界経済における貿易問題を巡る緊張の増大や金融資本市場の変動の影響等の懸念により、不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,978,263千円、営業利益は414,131千円、経常利益は415,292千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は267,271千円となりました。

セグメント別の業績は次の通りであります。

#### < IT人材事業 >

IT人材事業におきましては、事業環境の好調が続いております。企業におけるIT人材への需要は増加しており、同時に、政府が主導する「働き方改革」を背景とした新たな個人の働き方が広がりを見せ、ITフリーランスも増加傾向にあります。

両者のマッチング機会を最大化するため、積極的な広告展開や、既存のITフリーランスとの繋がりをより強固にするイベント、AI関連のセミナーを主催する等の取り組みを行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は626,206千円、セグメント利益は329,373千円となりました。

#### < IT人材育成事業 >

IT人材育成事業におきましては、合宿型でプログラミングと英語を学ぶことができる「エンジニア留学」が大きな特徴となっております。エンジニア留学の認知拡大を目指すとともに、他企業からの学校受託運営等にも注力しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は112,188千円、セグメント利益は2,438千円となりました。

#### <ゲーム事業>

ゲーム事業におきましては、国内スマートフォンゲーム市場のユーザー獲得競争は激しさを増し、ゲームタイトル毎の収益性の格差が拡大する状況となっております。このような環境下、株式会社バンダイナムコオンラインから受託開発した「アイドルリッシュセブン」及び株式会社バンダイナムコエンターテインメントと共同開発した「ツキノパラダイス。(ツキパラ。)」等の受託運営を行っております。また、第1四半期連結会計期間において受託開発を行った他社IPによるゲームの新規リリース(注)がありました。その他、来年度以降の売上に向けた2案件の受託開発を受注しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は1,142,923千円、セグメント利益は260,183千円となりました。

(注) パブリッシャーとの契約によりタイトル非公開

#### <動画事業>

動画事業におきましては、主にパチンコ・パチスロなどの遊技機系とスマートフォンゲーム・アプリのPV(プロモーションビデオ)をはじめ、企業のサービス・商品、採用ホームページ用の映像・動画制作を行っております。また、新しい取り組みとして、VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)やプロジェクションマッピング、3Dホログラムなどの様々な新技術を活用した動画コンテンツの制作を行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は61,153千円、セグメント利益は9,887千円となりました。

#### <インターネット事業>

インターネット事業におきましては、ゴルフ業界向けのインターネットサービスを積極的に進めており、主にゴルフファン向けの情報サイト「Gridge」の運営を主軸とし、メーカー各社向けに商品記事制作や動画・リアルイベント等を連動させた販売促進・PR活動の支援を行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当該事業分野の売上高は40,568千円、セグメント損失は22,552千円となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### (流動資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産の残高は前連結会計年度末と比較して214,319千円減少し、3,877,084千円となりました。これは主に仕掛品が154,503千円減少したことによるものであります。

#### (固定資産)

当第2四半期連結会計期間末の固定資産の残高は前連結会計年度末と比較して56,992千円減少し、366,731千円となりました。これは主に繰延税金資産が71,061千円減少したことによるものであります。

#### (流動負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債の残高は前連結会計年度末と比較して614,436千円減少し、927,970千円となりました。これは主に未払法人税等が140,314千円、前受金が349,202千円減少したことによるものであります。

#### (固定負債)

当第2四半期連結会計期間末の固定負債の残高は前連結会計年度末と比較して158,450千円減少し、76,893千円となりました。これは主に長期借入金が167,815千円減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の残高は前連結会計年度末と比較して501,573千円増加し、3,238,950千円となりました。これは主に資本金および資本準備金が110,796千円、利益剰余金が267,271千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、資金という）の残高は2,502,432千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動により支出した資金は96,156千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益415,292千円を計上した一方で、前受金の減少額349,202千円、法人税等の支払額206,357千円を計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動により支出した資金は2,424千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,164千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動により支出した資金は14,379千円となりました。これは主に、リース債務の返済による支出9,320千円によるものであります。

(4) 従業員

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい変動はありません。

提出会社の状況

当第2四半期累計期間において、当社の従業員数に著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	34,000,000
計	34,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,407,640	10,407,640	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお単元株式数は100株であります。
計	10,407,640	10,407,640		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月1日(注)1	5,172,420	10,344,840		1,080,020		1,030,020
2019年9月30日(注)2	62,800	10,407,640	2,929	1,082,949	2,929	1,032,949

(注) 1. 株式分割(1株を2株に分割)による増加です。

2. 新株予約権行使による増加です。

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
曽根原稔人	東京都渋谷区	3,552	34.26
合同会社アトム	東京都渋谷区松濤 1 丁目18番22号	3,400	32.79
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番11号	549	5.30
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番11号	416	4.01
資産管理サービス信託銀行株式 会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番12号	272	2.63
加賀電子株式会社	東京都千代田区神田松永町20番地	100	0.96
丸山大	千葉県市川市	80	0.77
WMグロース3号投資事業有限 責任組合	東京都千代田区麹町 3 丁目 2 番地	69	0.67
株式会社グッドスマイルカンパ ニー	東京都千代田区外神田 3 丁目16番12号	66	0.64
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋 1 丁目 9 番 1 号	60	0.58
計		8,566	82.62

(注) 持株比率は発行済株式総数より自己株式数(40,000株)を控除して計算しています。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,366,400	103,664	
単元未満株式	普通株式 1,240		
発行済株式総数	10,407,640		
総株主の議決権		103,664	

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ギークス株式会社	東京都渋谷区道玄坂二丁目 11番1号	40,000	-	40,000	0.384
計		40,000	-	40,000	0.384

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、当社は前第2四半期連結累計期間は四半期連結財務諸表を作成していないため、四半期連結損益計算書に係る比較情報は記載しておりません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,615,535	2,502,432
売掛金	1,132,281	1,151,698
商品	219	150
仕掛品	254,185	99,682
貯蔵品	598	502
前渡金	749	372
前払費用	46,878	103,131
その他	40,955	22,267
貸倒引当金	-	3,153
流動資産合計	4,091,404	3,877,084
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	133,886	125,824
車両運搬具(純額)	3,663	3,130
工具、器具及び備品(純額)	22,622	19,908
リース資産(純額)	-	24,420
有形固定資産合計	160,172	173,284
無形固定資産		
ソフトウェア	629	862
無形固定資産合計	629	862
投資その他の資産		
敷金及び保証金	188,839	189,563
繰延税金資産	74,082	3,021
投資その他の資産合計	262,921	192,584
固定資産合計	423,723	366,731
資産合計	4,515,127	4,243,815

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	657,590	682,981
1年内返済予定の長期借入金	57,403	-
未払金	58,777	22,391
未払費用	42,718	23,526
未払法人税等	224,488	84,174
未払消費税等	81,942	18,899
預り金	31,138	23,204
前受金	350,750	1,548
前受収益	37,369	48,907
リース債務	-	18,599
その他	228	3,737
流動負債合計	1,542,406	927,970
<b>固定負債</b>		
長期借入金	167,815	-
繰延税金負債	-	3,432
リース債務	-	5,821
資産除去債務	67,528	67,640
固定負債合計	235,343	76,893
負債合計	1,777,750	1,004,864
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	972,152	1,082,949
資本剰余金	922,095	1,032,892
利益剰余金	865,935	1,133,207
自己株式	21,000	21,000
株主資本合計	2,739,184	3,228,049
<b>その他の包括利益累計額</b>		
為替換算調整勘定	2,049	10,601
その他の包括利益累計額合計	2,049	10,601
非支配株主持分	242	299
純資産合計	2,737,377	3,238,950
負債純資産合計	4,515,127	4,243,815

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,978,263
売上原価	910,755
売上総利益	1,067,507
販売費及び一般管理費	* 1 653,376
営業利益	414,131
営業外収益	
受取利息	36
コンテンツ著作権譲渡益	4,500
その他	65
営業外収益合計	4,601
営業外費用	
支払利息	201
為替差損	1,803
株式交付費	1,435
営業外費用合計	3,440
経常利益	415,292
税金等調整前四半期純利益	415,292
法人税、住民税及び事業税	73,572
法人税等調整額	74,492
法人税等合計	148,064
四半期純利益	267,228
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	267,271

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2019年4月1日  
至 2019年9月30日)

四半期純利益	267,228
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	12,715
その他の包括利益合計	12,715
四半期包括利益	279,944
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	279,911
非支配株主に係る四半期包括利益	32

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
 (自 2019年4月1日  
 至 2019年9月30日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	415,292
減価償却費	22,223
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,153
受取利息及び受取配当金	36
支払利息	201
株式交付費	1,435
為替差損益(は益)	91
売上債権の増減額(は増加)	19,553
たな卸資産の増減額(は増加)	154,668
仕入債務の増減額(は減少)	38,469
前受金の増減額(は減少)	349,202
前受収益の増減額(は減少)	11,800
未払消費税等の増減額(は減少)	63,043
その他	109,515
小計	105,801
利息及び配当金の受取額	36
利息の支払額	137
法人税等の支払額	206,357
その他	4,500
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>96,156</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	1,164
無形固定資産の取得による支出	496
敷金及び保証金の差入による支出	763
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,424
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	225,218
リース債務の返済による支出	9,320
株式の発行による収入	220,158
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,379
現金及び現金同等物に係る換算差額	141
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	113,102
現金及び現金同等物の期首残高	2,615,535
現金及び現金同等物の四半期末残高	*1 2,502,432

【注記事項】

(会計方針の変更)

当期より、在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」を適用しております。当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料手当	279,078千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	2,502,432千円
現金及び現金同等物	2,502,432千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

- 1 配当金支払額

該当事項はありません。

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

- 3 株主資本の著しい変動

当社は、2019年4月22日で、S M B C日興証券株式会社から第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)の払込を受けました。また、当第2四半期連結累計期間において、ストック・オプションとしての新株予約権の権利行使がありました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が110,796千円、資本準備金が110,796千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,082,949千円、資本剰余金が1,032,892千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 連結損益計 算書 (注) 2
	IT人材 事業	IT人材育成 事業	ゲーム 事業	動画事業	インター ネット 事業			
売上高								
外部顧客への売上高	626,206	107,411	1,142,923	61,153	40,568	1,978,263	-	1,978,263
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4,777	-	-	-	4,777	4,777	-
計	626,206	112,188	1,142,923	61,153	40,568	1,983,040	4,777	1,978,263
セグメント利益 又は損失( )	329,373	2,438	260,183	9,887	22,552	579,330	165,199	414,131

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 165,199千円には各報告セグメントに配分していない全社費用  
 178,295千円及びセグメント間消去取引13,096千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失の合計額と調整額の合計は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	26円01銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	267,271
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	267,271
普通株式の期中平均株式数(株)	10,277,298
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	25円15銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	
普通株式増加数(株)	347,886
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

(注) 2019年9月1日付で普通株式1株を2株に分割する株式分割を行っております。上記では、当連結会計年度の期首にこれらの株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

ギークス株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 遠 藤 康 彦

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 伊 藤 裕 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているギークス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ギークス株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。